



強制種付け祭り開催!

はらませ  
ローリンぐ!

「へっへっ、いい眺めだなあおい」

「おー？お・おにーちゃん達、何でひなのコト縛るの？  
お、おっぱい見ないで・ひな、恥ずかしいよ」

「おにーちゃん達さあ、ひなちゃんのブルマ姿見たらムラムラしちゃってさあ  
もうチンポもギンギンなわけよ、って」とで後はわかるでしょっ」

「お、おー？な、何？ひな、わかんないよ」

ギキッ

ギキッ



「じゃあ直接教えてあげるね、つとおー！」

「ooooooooooooo」

「うほひ、さすがにキジすきミ」

「あっ…がっ…」

ビクッ!

イキイキイ

イキッ!

三千ッ

三千ッ



「処女ロリマンユヤべえ!!  
すぐイっちゃいそうだよひなちゃんっ」

「…ひっ…あっ…」

「ありや、泡なんか吹いて失神してら  
しょうがないなあ、気付けにザーメンプチ込んであげるかw」

パキッ!

グキョッ

グキョッ

パキッ!

ピクッ

ピクッ



「なななっおおおっ」

「…ふん…？」

「ほらほらひなちゃんっ  
おはようのサーメンだよっ」

「な…何…？？ひなのお腹の中に…  
あったかいのが入ってくる…」

ドクドク!

ゴク!



「ふう、ひなちゃんどうだった？  
初めてのの中出しセックスの感想は」

「…あ…あ…ひなのお股…  
破けちゃった…の…？…す…す…いい…いい…」

「ありや、まあたオチちやいそうだな  
せつかく起こしたってのに」  
「オイ、お前も気付けの二発かましてやれよw」

「オッケー、待ってましたっ」

ピクッ

ピクッ

ドロッ

ピクッ

ピクッ









「はあっはあっ、ひなちゃんマンコいい具合にほぐれてきて最高だよ」

「……う……あ……あ……」

「あく、またトンじゃってるじ」

「そりやそうだろ、何時間やってんだってのw」

「っせーなあ。ひなちゃん、俺のザーメンでまたすぐに起こしてあげるからねっ」

「……あ……お……おに……ちや……た……たす……け……」

ピロッ

ピロ

クワッ

ズッ



「オラいい加減に大人しくしろっこの」

「放せっ！なんだお前等！あつ、コラ！やめる服脱がすなあ！」

「だーっ、ギヤーギヤーうるっせえなあ」

「うっさいポケ！放せアホ！」

「…あっ？」

キ

ニ



「…黙れっつてんだらうがオラァー!」

「ooooooooooooooooo?」

「オラどうだった、前戯無し処女マン」開通の気分はっー!」

「…あっ…キッ…ひっ…」

ピロカッ!

ズ

ズ

ズ

ズ



「オラオラッどうだ初チンポのお味はよおー」

「あっ、がっ、うあっ！う、うっさい、アホっ……！」

「ちっ、口の減らねえ…オイ！コイツ黙らせてくれよ」

「オッケー、任じとき」

「あっ、うあっ、な、なんだオマエ…っ」

アッ

ズグ

ギョ

ハイ



「ほーら、とりあえず俺のチンポでも啜えて大人しくしまちようねーっ」と

「んぐうううううううう」

「おー、ナイスアイディーアw」

ガッ!

ガッ!

ゴ





「もうだめだった出るっー」

「んほおおおおおおおつっっっ」

「おおあつ、ロリフェラロ内射精たまんねえっ  
ほらほら真帆ちゃんっ！まだまだ出るよっ  
俺のくっせえザーメンもっとゴックンじてっー」

「んぐっーんぐっーんぐっー！ゴクッ！ゴクゴクッ！  
お、おえっ……おええええええっ！」



ゴクッ  
ゴクッ  
ゴクッ

ゴクッ

ゴクッ

「オラっ今度は二っちだ！初レイプで孕めやオラァッ！」

「うあああああつっつっ！  
な、なんだっ…これっ…お腹に…熱いの…入ってくるっ…  
や…やめろっ出すなっ！あたしの中に変なの出すなあっ！」

「へっもう遅えよ、まだまだ出るぞオラッ」

「あ…またドクドクって…入って…  
あああああああつっつっ！」

ヒッッ!

ドクッ  
ドクッ

ドクッ  
ドクッ





「オラまだ7発目だぞ、勝手にオチようとしてんじゃねえっ」

「…あ…」**こめ…な…ひゃい…**」

「またすぐザーメン流し込んでやっからよ、嬉しいかオイ？」

「は…はひ…う…うれ…ひ…でひゅ…」

「へっ、これからたっぷり仕込んでやっからな、楽しみにしてな」

「…は…はひ♡…」

パッパッ

ゴッゴッ

ドッ

「おほっ絶景かな絶景かなw」

「あ…あの…何でワタシの服脱がしますか？  
は…恥ずかしいです…」

「いやー俺洋モノ大好物でさあ  
ミニちゃん見たらたまになくなっちゃってw」

「よ…洋…？よくわからなです…  
と…とにかくコレを外して下さい…」

「ああ、用が済んだら外してあげるよ」

「…え…？」

ビッ

ビッ



「そんじゃ初モノ洋ロリマンコいただきまーっす」

「…あ…え…?」

「ほらほらっ、ミニちゃんのマンコ」  
俺のチンポがどんどん入ってくの分かるかな?」

「へ…っ…あ、…あ…あ…うんぬん」



ピクッ!

ガクガク!

「はあっはあっ、いいよ……ちやんこ  
やっぱり洋ロリ最高だわっ」

「あっ、がっ、ひいっ！……いたっ！  
痛いっ、ですっ……や、やめ、やめてく……ひいっ」

「あっ、ムリムリっ、こんな腰止まんないって……  
……ちゃんのマン」が悪いんだってっ」

「そっ、そんなのっ、わっ、わたしっ、知らなっ……」

ズグ

ギキッ  
ギキッ

パン！  
パン！



「ああっ、で、出るっ  
洋ロリマンゴにザーメン中出しっー」

「ああああああああっっっっっ」

「おおお、ミミちゃんわかるっ？」

「ミミちゃんの中に俺のザーメン出てるのわかるっ」

「な、何っ、「コレ」わ、ワタシの中にっ、  
びゅっびゅっっっ、あ、熱いっ、のがっ、  
ふああああああっっ」

ドクドク  
ゴク!

ククク!



「ふう、いや〜よかったよミニちゃん  
人生で一番大量に出たかもw」

「…あ…あ…ああ…っ…」

「ありや、半分気失ってんのかな？  
こっちはまだまだイけるんだけど…  
おっ、どうせならゴツチの初めても頂きますかねw」



「ていつとで洋ロリアナル」ちっー！

「きびしいいいいいいいいいいい」

「あ、起きたっ？おはようミニミニちゃん」

「おっ、おしりっ！おしりっ！裂けちゃっ！

あっ！がっ！うあああっ！

「ああっ、ミニちゃんはケツマン」も最高だよっ」

「やっ！やめっ！死んじゃっ！

死んじゃうよおっ！

ズネ

ピク！

ズネ





「おおおっ、今度は洋ロリケツマンコに中出しっ！」

「まっ、またビュッビュッって！おっ、お尻の中につっ！  
やっ、やだっ！やだああああああっっっ！」



「はあっはあっ、いやあ「ゴメン「ゴメン」  
ちよっとやりすぎちゃったかな？」

「…う…えぐっ…えぐっ…ぐすっ…  
ひ…ひどい…です…」

「いやあミミちゃんが可愛いすぎるからついね  
今度は優しくするからさ、ね？」

「…え…「…今度…」」

「ミミちゃんはこれからずーっと  
俺と一緒にだからさ  
毎日いーっぱいセックスしようねっ」

「…え…「…や…いや…  
いやあああああっ！」



「オイそっち、ちゃんと押さえとけよ」

「わーっってるっての」

「…あ…あの…」

「ん？」

「…わ…わたし…こ…ういう事は…その…  
ちゃんと決めた人として…えと…」

「へえ、これから何すんのかわかるんだ？  
何何決めた人って？好きな男でもいんの？」

「え？…えと…あの…は…はい…  
で…ですから…その…離じていただけると…」

「ふうん、成程ねえ…」



「って知るかってのー！」

「え……？……あ……ああ……あああつ!?  
だ……だめ!だめえええええええつ!?」

ポホ

イキッ!

イキ

ゴキッ!

イキ



「おほっ、さすが処女ロリナスポーツ娘だけあってマンコの締め付け半端ねえw」

「あっ！やっ！やだあっ！やっ、やめ！やめでくだ！っ、ひいつ！」

「これじゃあ、抜く暇も無くせくんぶ中に  
出ちまうかもなあw」

「…え…っな、中って…やっ！いやあっ！

お願いっ、ですからっ、それだけはっ！

それだけはあの人につ！あの人だけに私はっ！」

ズ  
ズ  
ズ

ズ  
ズ

ズ  
ズ

ズ  
ズ  
ズ





「なにがあの人だ色気付きやがってっ  
キツチリ孕めやオラアツ！」

「やつ、やだやだっ！いやっ、いやあっ！  
いやあああああああああああつっつっつっ」

ゴク!

ゴク!

ビュッ!

グッ!

ゴク!

ゴク!

ゴク!

「へっ、見えるかオイ？ テメエのマン」から俺のザーメンが溢れだしてんのがよお？」

「鬼かオマエはw」

「あ…あ…そ…そんな…わ…私…汚れちゃった…これじゃもう…あの人と…」

「あれ？これって寝取られてちっつw」

「知るかよwっ！かっつと交替しろやさっきからギンギンなんだよ」

「あーよ」

「い…いや…お…お願い…ですから…も…もう…やめ…」



ゴボ

ゴボ

ゴボ

ゴボ

「んじゃ俺は「っ」ちの初めてきっ……とおっ、きっ……」

「ひ……っ……きい……」

「これやっべ、チンポ引っこ抜けそうだわっ」

「そっ、そ」「違っ……あっ……がっ……あきっ……  
「やっ、やめっ……おっ、お尻っ、裂けちゃうっ……」

ズキッ！

ズキッ！

ズキッ

ズキッ！

ズキッ！



「も、もうもたねえっ、で、出るっ！」

「あ…ああ…で、出てる…こ…今度はお尻の中に…  
い…いっぱい男の人のが…入ってきて…あ…あああ…」





「どつちが鬼畜だよオイW」

「いやあ面目ないW」

「…あ…ああ…あ…」

「あああ、完全に失神しちゃってまあ大事な商品なんだからあんま無茶すんなよ」

「え、何売っちゃうの?」

「ああ、なんでもこの辺の上質なロリ」とつ捕まえて金持ち共の相手させるらしいぜ

「ふうん…」

「あ…あ…わ…たし…」

「は…わ…さん…た…たす…け…」

コポッ

ドロッ



「ほーらひなちゃん、みなさんにひなちゃんのオマンコを見せて差し上げて?」

「おー、おにーちゃん達、ひなのオマンコ見てえ♡」

「おおおっー!」

「まだひなのオマンコ空いてるよ? ひな、早くおにーちゃん達のオチンポでズポズポして欲しいなあ♡」

「?」

ー

ママ

ズポズポ

ズキ

ズキ

ズキ



「うおおっひなちゃんっ!」

「わっ♡ふわあああああ♡」

「きたあつ♡おにいちちゃんのプっといオチンポ♡  
入ってきたああ♡」

「ちよっ、お客様困りますっ!」

「やかましいっ!金なら後で  
いくらでも払ってやるっ!」

「はにゃあああ♡す、す♡いい♡」

「おにいちちゃんのオチンポす♡いいよおお♡  
お尻とオマンコっ、スポスポされて  
ひな、もうだめええええ♡」

「いいよひなちゃんイっつて!!  
お、俺ももうっ!」

トキッ  
トキッ  
トキッ

ズキ!

ズキ!

ヒッ  
ヒッ  
ヒッ

ズキ!  
ズキ!  
ズキ!



「で、出るっ！」

「ふにゃああああああ♡

お尻とオマンコ♡一緒にザーメンきたあああ♡  
イ、イ、ぐっ♡イ、ぐ、ぐっ♡同時に中出しされて♡  
ひな、ひな、ひな、ひな、ひな、ひな♡

「おおおっ、ひ、ひなちゃんがアへっでっ、っ、  
うっ、まっ、まだ出るっ！」

「んほおおおおおおおお♡

ま、またザーメンきたあああ♡

しゅ、しゅ、い♡い♡しゅ、い♡い♡よおおおお♡

ビビビ!

ビビビ!

ビビビ!

ビビビ!

ビビビ!



「はあっ、はあっ  
「こんなに出したのか俺…」

「あ♥ふあ♥ひ♥ひなのオマンコから「こんなに  
いっぱい出してくれて、ひな幸せだよお♥」

「ひ、ひなちゃん…  
お、俺まだまだ出来るよっ」

「おー♥ホントっ？ひな、嬉しいっ♥」



「あ…アレが、ひ…ひな…たちちゃん…っ？」

「おやご存知でしたか  
ええ、当店自慢のロリピッチですよ」

(そ、そんな馬鹿な!?  
これじゃ他のみんなは一体!?)

「ほらほら♡あたしがしてあげるから  
おにーさんはじっとしててっ♡」

「あ、ああ」

(な、なんかピッチぽいなあ  
ピッチ系はあんま好きじゃないんだけど…  
見た目で選んだのは失敗だったかな…)

「あはっ♡おにーさんのチンポすっげー固い♡」

(うっ、さ、さすがにキつつー！)

ン

ズ

クキョ  
クキョ



「あっ♡あっ♡んあっ♡  
ど、どうっ？あ、あたしのっ、  
真帆のオマンコっ、気持ちいいっ！」

「あ、ああ、これはちよっと  
長持ちしそうにないや・うっ！」

「いいからっ♡」

「えっ？」

「いつでもっ、何回でもっ、  
出していいからっ♡  
真帆っ、頑張るからっ♡  
いっぱい気持ち良くなっ♡っ！」

（うっ、な、なんか  
急に可愛らしくっ）

ハハハッ！「キュ！」

「キュ♡」

「キュ！」

「ほ♡」

「ほ♡」



(や、やばっ、出るっ！)

「ふあっ♡？き、きたっ♡  
いきなりせーしきたああっ♡  
しゅ、しゅっ♡、こ、こんなにいっぱい♡  
真帆のオマンコじゃ入りきらないよおっ♡  
ら、ちめっ！溢れちゃらめえっ！  
真帆のっ！このせーし全部っ！  
真帆のなのおっ♡♡！」





「うっ、さ、さすがにもうキツイって真帆ちゃん  
もう8回目だよ？もうそろそろ？」

「…飽きたんだ…」

「え？」

「真帆のコト…もう飽きたんだ…ぐすっ」

「い、いやいやそんなコトないって！」

「真帆のコト、好き？」

「も、もちろんだよっ」

「じゃあ…真帆の為にオチンチン…  
またおつきしてくれる…？」

（この上目遣いに）  
（この言葉遣い…断れないっ！）

（あ、あれが真帆だったって？  
し、信じられない…完全に  
別人じゃないか…）

「おや、真帆ちゃんを」指名で？  
いやああの子も見た目はもちろん  
妙な人気がありましてねえ」

「い、いえ…もう少し見て周りたいで…」

ごま



ズキ!

ズキ

ズキ

あ♡

ほ♡

ガキ!

「わ、ワタシってそんなロリっ、  
してなっ、あああ♡」

「ミニちゃんのロリマンコが  
俺のチンポにキユウキユウ  
吸い突いてくるから、  
腰止まんないってっ」

「あっ!はっ!んあっ!  
あっ、あのっ、も、もっ、優しくっ、  
お腹っ、くるしっ!」

「はあっ、はあっ、いいよおっ  
ミニちゃんのポテ腹ロリマンコ  
最高だよっ」

ズキ!



「あああっ！イクっ、イクよミニちゃん！」

「あっ！やつ！だめっ！待ってっ！」

「あっ♡あっ♡あっ♡ひあっ♡」

「ああああああっ♡♡♡」

「ほんとミニちゃんは中出しされるとすぐイっちゃうんだねっ、もっともっとザーメン出してあげるっ！」

「わっ、わらひっ、そんなんっ！」

「いってなんかつ、あっ♡やつ♡やつ♡」

「ああああああっ♡♡♡」



「あ……あ……う……あ……」

「そんなに痙攣する程  
気持ち良かったんだ、嬉しいなあ」

「……き……気持ち……よく……なんか……  
な……なって……な……」

「またまたあw  
ツンデレだなあ……ミちちゃんは  
今日は一日中……シてあげるからね」

「……そ……んな……きよ……今日は……  
もう……もたな……」

「あ……あ……う……あ……」

「はあつはあつ、気を失ってる  
ミニちゃんも可愛いよっ」

「あ……ああ……あ……」

「失神ロリマン」最高！」

（あ、あれは？）

「ちょ、ちよっと！彼女もう意識が！」

「えっ？ああ、あれはもういつも  
あんな感じですよ。うちの幹部の  
お気に入りです。捕まえた時から  
誰にも触らせませんよ」

「な、何を言ってる……」

「我々から見てもさすがに  
悲惨ですがねwそういう訳で  
売り物じゃないんですよ」

（く、狂ってる……っ！）

「てな訳で後はもう  
ポンコツくらいしか……」

「ポンコツ……っ！」

チュ

ズグズグ

ググ

ズグ

「オラっ!ちったあ反応しろや  
このポンコツ!」

「チイツ!ダメだコリヤ...  
ったくダツチワイフと変わんねえぞコリヤ」

チキ

グキョッ

パン!

パン!



「オラっ燃料ブチ込んでやっから  
ちったあ動けやポケっ!!」

「チツ反応しねえくせにマンコだけは  
吸い突いてきやがるっぐうっ!!」

ビュッ

ゴクッ!

ゴクッ!



「.....」

「あーまったくマジでダッチワイフだわーりや」

「いやいや、これブツ壊したのアンタっしょw」

「うっせーよ、ちっと孕んだくれーで  
頭イツちまいやがって」

「まあまあ、これの世話係  
アンタなんだからさ  
きちんと面倒みないと」

「なーにが世話係だつての  
こんなマジモンの肉便器  
性欲処理以外に使い道  
ないつての」

「ひどw」

「まったく、こうなったらっついでに  
マンコもブツ壊れるまでハメ倒してやんよっ」



ビキッ

ビキッ





「あ……あ……」

「おっ、コイツ今反応したか？」

「……が……わ……さ……」

「あ、ホントだ」

「……で……くれ……た……」

「……何言ってるんだ」「イッ」

パッ！  
パッ！  
ゴキョッ

「ああ、アレですよあれ」

（智花……やっと見つけた……  
これで……！）

「でもダメですよアレは  
ホント使い物にならなくて」

「アンタに言われたかないけどね」

「は？」

（もうとっくに取り囲まれてるっつーの  
こんな「ト」したら警部が動き出すって  
相場が決まってるんだよ……！）

（さあ帰ろうみんな！紗季や愛莉が待ってる……！）

